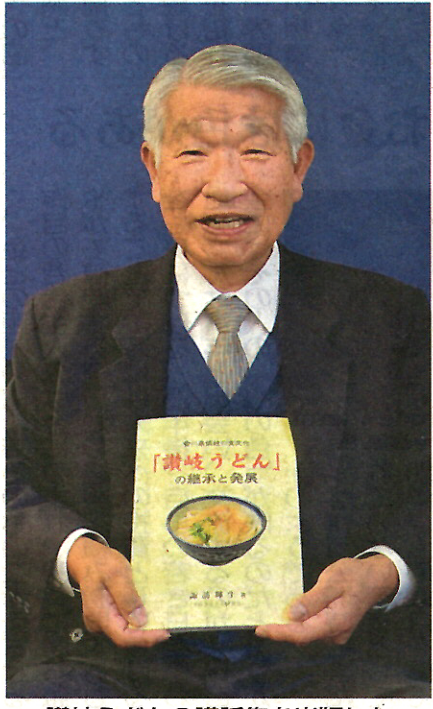


「香川はうどん県」文句なし



讃岐うどんの講話集を出版した「さぬきうどん研究会」顧問の諏訪輝生さん—高松市で

「うどん県に改名いたします」というPR映像を香川県が2011年に観光情報サイトで公開した時、「讃岐うどんの香川だけが『うどん県』を名乗ったら、他のうどん名産地からクレームが来るのでは」と心配した。

しかしそれは杞憂だった。むしろ、サイトにアクセスが殺到するほど予想以上の反響を呼んだ。なぜども文句を言わなかったのだろうか。

そんな書き出しで始まる講話集「香川県伝統の食文化『讃岐うどん』の継承と発展」(美巧社)を「さぬきうどん研究会」顧問の諏訪輝生さん(78)＝高松市＝が自費出版した。

を実感していた。その中で、香川が「うどん県」と堂々と名乗れる理由は何か。諏訪さんはさまざまな調査結果から、その裏付けデータを見つけていった。

講話集では主に次のような数字を紹介している。①県民がうどんを食べる頻度は週1回以上が72%、週2〜3回以上が25%、(22年調査)②都道府県庁所在地でうどん・そばの家庭内の年

間支出額トップは高松市の1万764円(24年調査)③都道府県別で人口1万人当たりのうどん店数トップは香川の5・02店(21年調査)。



講話集「香川県伝統の食文化『讃岐うどん』の継承と発展」—高松市で

裏付けデータみっちり／全国ブームの起こりも考察

第3次の起こりは2000年。複数の讃岐うどんチェーン店が首都圏に相次いで初出店。できたて麺に箸が具を選んでトッピングオクトルセルフ店が評判を呼び、「うどん県」を名乗れるだけの土台が築かれていったと分析している。

讃岐うどんは今や、国内で知らない人はいないほどだ。「うどんは昔、讃岐人にとって、凶作の時に飢えをしのぐための食べ物だった。時代の進展とともに、なくてはならないものになった」。諏訪さんは讃岐うどんの歴史を振り返り、「香川独自の伝統の食文化であることを、県内外の人にもっと知ってほしい」と願う。

講話集は2200円。インターネット通販「アマゾン」や香川県内の一般書店などで購入できる。

【佐々木雅彦】